

平成21年11月15日

No.240

畜産会 経営情報

主な記事

- ① セミナー生産技術
水田跡地の放牧草地化技術 山本 嘉人
- ② セミナー経営技術
畜産特別資金借受者指導に係る取り組み状況の概要
(社)中央畜産会
- ③ お知らせ
- ④ あいであ&アイデア
子牛の移動、これがあれば十分です 進藤 哲
- ⑤ 牛肉・豚肉、子牛市況

社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2ディーアイシービル9階
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890
URL <http://jlia.lin.gr.jp/cali/manage/>
E-mail jlia@jlia.jp

セミナー

生産技術

水田跡地の放牧草地化技術

山本 嘉人

はじめに

昨年からの輸入飼料高騰はようやく一段落してきましたが、今後も高めに推移していくと予測されています。バイオ燃料との競合などから将来の供給不安もあり、飼料自給率向上は畜産分野に限らず、消費者も含めた国民全体の要望といえます。

水田においても米政策改革大綱決定を受け、飼料生産基盤として利活用する場面は今後も増えていくと考えられます。田畑転換で飼料作物を栽培することは以前から行われてきましたが、水田機能を維持させる飼料イネおよび飼料用米の作付面積も広がりつつあります。さらに、転作田などを放牧地として草

地化し、肉用繁殖牛などを放牧する「水田放牧」にも注目が集まっています（写真1）。

従来、水田区画のように点在する小規模な土地を放牧地として利用することは困難とされてきました。しかしながら、電気牧柵で小さな牧区を囲い、牧区間で家畜を移動放牧する「小規模移動放牧」技術（山地畜産研究チー



(写真1) 水田放牧

ム2006)により、水田放牧は多くの地域で普及がみられています。

「全国飼料増産行動会議」では、平成21年度の行動計画として、放牧経験牛確保や草地管理技術改良などの放牧推進策により、肉用牛の水田放牧頭数を7500頭に増やすことを目標にしています。

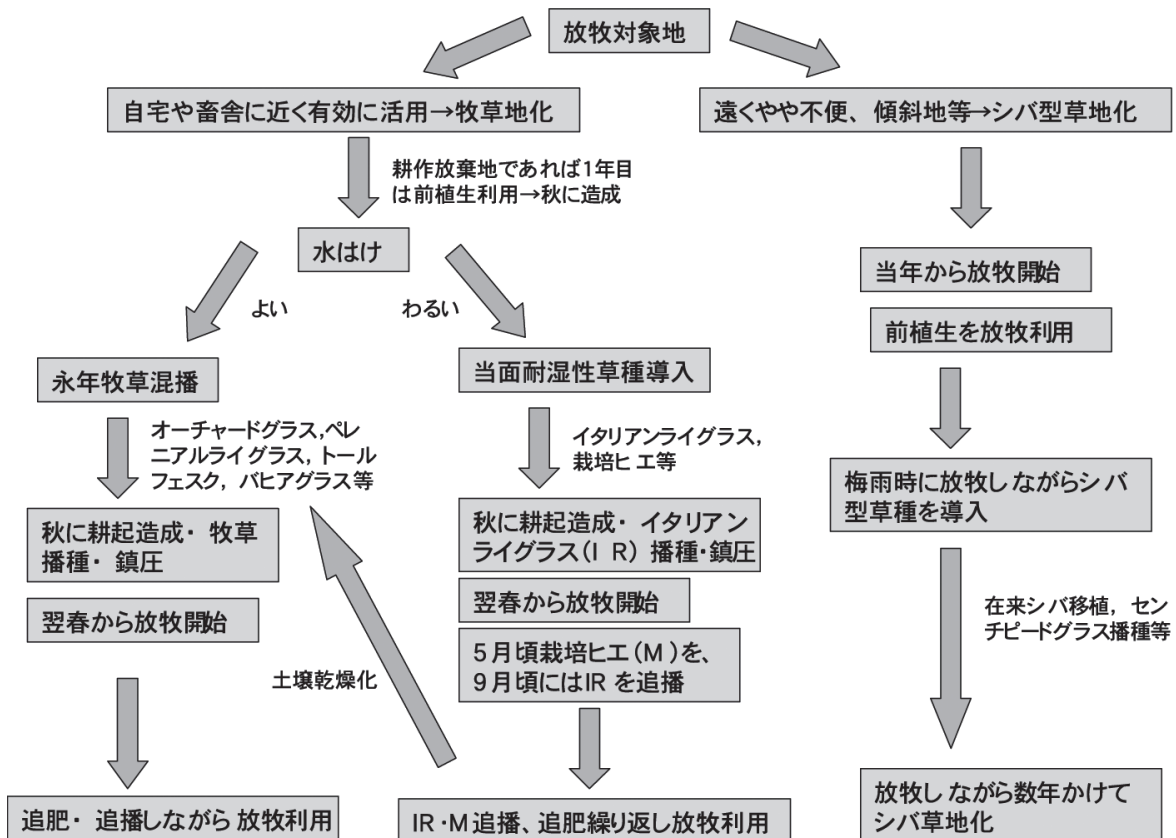
水田放牧地の草地化

転作田や遊休水田を持続的に放牧利用するには、何らかの草地化が必要となります。しかし、適用する草地化技術は、その対象地の土地条件や利用法などによって異なり、牧草を活用した集約放牧草地から省力的なシバ型

草地まで具体的技術は多岐にわたります(山本2003)。従って草地化に当たっては、対象地の土地条件、利用法および投入管理労力に応じて草地化する必要があります(図1.山本2009)。

畜舎近くに位置し利便性が高ければ、集約利用で生産量も高い寒地型牧草(オーチャードグラスやペレニアルライグラスなど)を導入します。温暖地では寒地型牧草地の維持は困難ですので、バヒアグラスなどの暖地型牧草の導入を検討します。しかしながら、湿害や水田土壌などの条件により、従来の草地造成管理技術が適用できないことが多くみられます。すなわち、オーチャードグラスなどの永年牧草は湿害に弱く、このような牧草を排

(図1) 水田などの放牧草地化(山本2009)



水が良好でない水田草地に定着させることは困難です。一般の放牧草地と同様に永年牧草を水田に^{はしめ}播種した場合には、導入した永年牧草種が夏季に衰退し、雑草の優占度が高まる傾向が多いようです。草地転換後年数を経るとともに水田雑草優占度の割合が低下する傾向がみられますが、排水性に劣る転換草地では少なくとも転換後数年間は水田雑草が増加します。

これらに代わる耐湿性のある永年生牧草としては、リードカナリーグラスやレッドトップが考えられますが、両種ともやや嗜好性が劣るとともに高い放牧圧では衰退しやすく、水田放牧下での生産量が不明であることから、今後の検討課題とされています。また、オーチャードグラスなどの永年生牧草が定着できたとしても播種後に利用を続けるだけでなく、毎年必要に応じて牧草密度が低下した個所には牧草追播することにより草地植生を長く維持させることに努めます。結果的に草地更新間隔が長くなり省力化

(表1) 耐湿性草種の組み合わせ草地と永年牧草地の植生推移 (山本ら2008)

(a) 耐湿性草種組み合わせ草地

月日	5月22日	7月17日	10月25日
植被率(%)	77.5	80.0	99.0
群落高(c m)	28.8	52.0	34.0
播種牧草被度(%)			
イタリアンライグラス	53.8	5.4	91.0
栽培ヒエ		67.0	5.8
他雑草等合計被度(%)	29.5	28.2	16.6

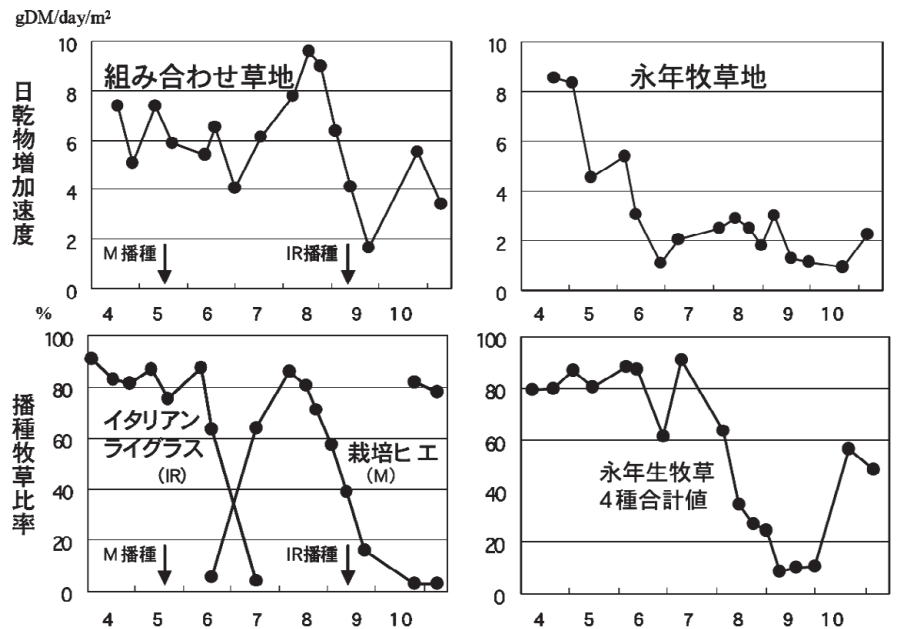
(b) 永年牧草地

月日	5月15日	8月4日	10月21日
植被率(%)	89.0	80.0	79.0
群落高(c m)	16.0	24.0	14.0
播種牧草被度(%)			
イネ科牧草4種合計	65.0	47.4	33.2
他雑草等合計被度(%)	34.4	38.6	53.2

永年牧草地にはバレンアルライグラス、オーチャードグラス、トールフェスク、ケンタッキーブルーグラスの4種を播種した

(図2) 耐湿性草種の組み合わせ草地と永年牧草地の季節変化 (山本ら2008)

組み合わせ草地では、夏に栽培ヒエが旺盛に生育することで、永年牧草のような夏期の生育低下がみられません



につながります。

耐湿性に劣る永年草でなく草地化初期段階では、生産量を確保するために湿害に強い栽培ヒエやイタリアンライグラスなどの1年生草種を組み合わせることもあります (山本

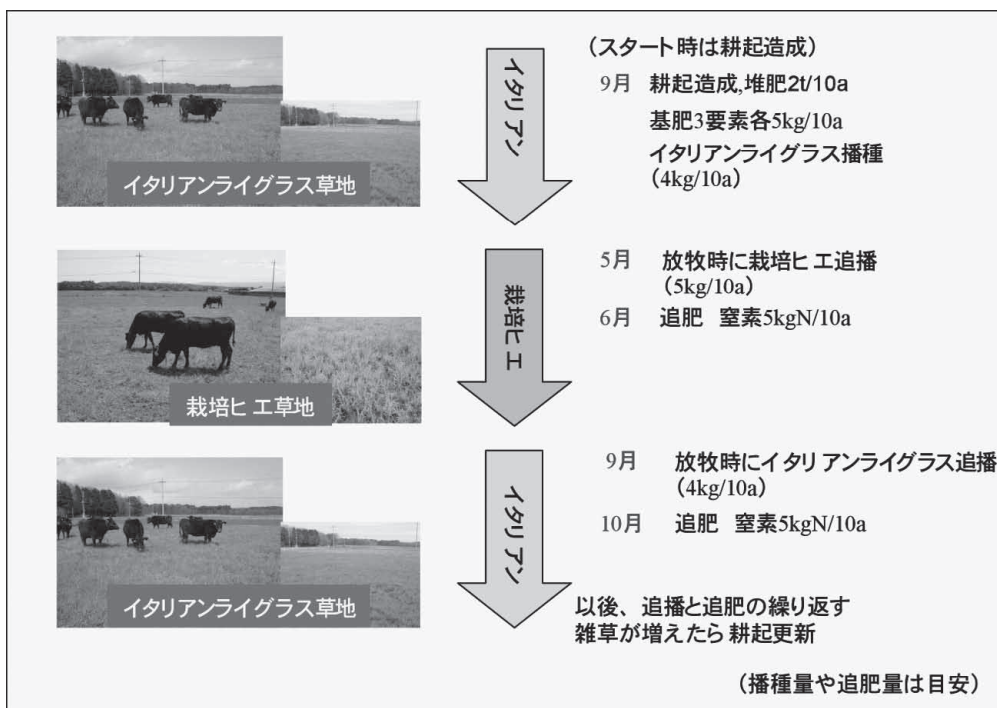


(写真2) 栽培ヒエ草地
栽培ヒエは冠水しても生育します

(表2) 組み合わせ草地と永年牧草地の年間生産量 (山本ら2008)

	組み合わせ草地	永年牧草地
放牧時期	3/29-11/8	4/3-11/4
放牧圧(頭・日/ha)	1380	1383
年間生産量(gDM/m ²)	1549.7	912.4
放牧期間生産速度(gDM/m ² /day)	7.0	4.3
年間被食量(gDM/m ²)	1538.6	899.3
平均利用率(%)	89.8	68.2

(図3) 栽培ヒエとイタリアンライグラス組み合わせ草地の造成管理法



2007)。北関東の水田放牧草地において、オーチャードグラスなどの寒地型永年生牧草を播種した永年牧草地と、1年生牧草の栽培ヒエとイタリアンライグラスを組み合わせさせた草地を比較すると、両草地に水田雑草も多くみられましたが、組み合わせ草地では、夏季に栽培ヒエ(写真2)、春・秋季にイタリアンライグラスがよく優占することが分かりました(表1.山本ら2008)。また、永年牧草地の乾物生産速度は6月以降低く推移しますが、組

み合わせ草地では夏季でも栽培ヒエにより高く維持されます(図2)。

年間の生産量や被食量は、組み合わせ草地では永年牧草地の1.7倍に達しました(表2)。草種の変換は、栽培ヒエを5月、イタリアンライグラスを9月の放牧時に追播して、放牧牛によく踏ませるとともに他の草を

食べさせ抑えます。播種した牧草は牛が他の牧区に移動している間に発芽定着させます。耕起することなく追播することで放牧利用を継続しながら草種変換することができます(図3)。

自宅から離れ利便性に欠ける山間部の棚田や傾斜地



(写真3) シバのふん上移植法
立ったままの楽な作業姿勢(左)と移植された苗(右)

などでは、施肥などの草地管理に労力をあまり投入せず、かつ移牧などの家畜管理も少ない定置放牧に向いているシバ型草地などの低投入草地とします。耕作放棄地はもともと利便性が悪く労力不足のため放棄されている場合が多いことから、低投入草地とすることが望ましいと考えます。省力的なシバ型草種導入法として、糞上移植法(北川ら2007)は、放牧しながら放牧牛の排ふん上にシバ苗を移植することによって省力的にシバを導入でき



(写真4) センチピードグラス
和名はムカデシバ。緑化用シバ型草種として導入され、最近では省力管理を目的に水田畦畔にも導入されています

(写真3)、センチピードグラス(写真4)は被覆速度が速く放牧しながら播種造成が可能な草種です(山本2005)。いずれも放牧利用を継続しながら、数年かけて徐々にシバ型草地へ変換させるように心がけます。

飼料イネなどを活用した水田放牧

水田機能を維持しながら水田における飼料作物栽培を拡大させるために、飼料イネは今後も栽培拡大が期待されています。しかしながら、畜舎への飼料イネ発酵粗飼料(イネWCS)運搬には多大な労力とエネルギーを要し、イネWCSを収穫したほ場でそのまま給与すると経費は50%削減されます(千田2008)。中央農業研究センターの関東飼料イネ研究チームでは、飼料イネも放牧体系に組み入れることによって、春季から夏季に草地化した水田放牧、秋季に飼料イネ立毛放牧、冬季に飼料イネ収穫ほ場でイネWCS給与と、周年にわたって屋外飼養する技術開発に取り組んでいます。春季から秋季にかけて他の草地化された水田や里山に放牧された繁殖牛を、冬季に飼料イネ収穫ほ場に移動し、備蓄したイネWCSを少しずつ開封し給与します。さらに省力的な飼料イネの給与法としては、収穫作業をせず直接飼料イネを立毛のまま放牧することです(千田2008)。秋季に電気牧柵をずらしながら(ストリップ放牧)放牧牛に採食させます(写真5)。

また、早生系統の食用米のヒコバエも放牧対象の飼料資源として注目されており、各地

で取り組まれつつあります。



(写真5) 飼料イネのストリップ放牧
電牧線を70cm高に張り、下から立毛の飼料イネを食べさせます

水田放牧地における放牧管理

耐湿性がある栽培ヒエなどの草地でも、梅雨時期の多量の降雨により放牧地内が湛水^{たんすい}されている状態では、泥濘化^{でいねい}によってその後の放牧草再生に影響を及ぼすことから、長期の滞牧は控えます。また、常に湛水状態が続くような水田は放牧地には向きません。

水田放牧草地では、畦畔^{けいはん}の保持にも努めます。畦畔が残っていれば、放牧草地から水田へ復田することも容易ですし、いつでも復田できることを示しておくことが、水田を放牧草地として転用することへの抵抗が小さくなります(写真6)。そのためには、畦畔を崩壊から防ぐために土壌保全に優れるセンチピードグラスなどのシバ型草種を播種したり(写真7)、放牧牛が直接蹄圧をかけないように電牧線を張ったりする工夫が必要です。段差が大きい棚田では、あらかじめ牛の誘導路を設置しておきます(写真8)。

初めて放牧に出す牛は、必ず外のパドック



(写真6) 復田した水田放牧地
前年まで6年間ほど放牧地として利用された後、とくに問題なく食用米が栽培されました



(写真7) 崩壊した畦畔(左)とセンチピードグラスを播種した畦畔
電牧線を張り、畦畔に牛がのぼらないようにします



(写真8) 牛の誘導路
段差が大きい棚田跡の草地には、あらかじめ誘導路も設けます

で電気牧柵に慣らし青草を給与するなど、放牧馴致^{じゆんち}を徹底しましょう。また、水田放牧を始めるとダニが発生しピロプラズマ病に感染する場合があります。あらかじめ牛体に忌避剤を塗布しておきます。飼料イネの水田に放

牧する場合は肝蛭^{かんてつ}にも注意し、確認された場合は駆虫薬などを処方します。

省力低コストである放牧のメリットを最大限に発揮させるには、周年にわたって放牧飼養することが望ましいと考えられます。従来の春季から秋季までの放牧では、冬季の舎飼い期間に給与する飼料の確保、飼料給与やふん尿処理などの家畜管理作業の負担も大きくなるとともに、飼養頭数すべてを受け入れる畜舎が必要となります。分娩前後や子牛などの家畜管理のために最小限の畜舎は必要としても、常に繁殖牛が放牧に出ていれば、畜舎の容量に左右されず放牧地を確保することで増頭可能となります。前述の飼料イネ活用やヒコバエ放牧などのように、畜舎や自宅周辺の里山なども含め放牧活用潜在地の掘り起こしに努め、補助飼料の併用も考慮しながら、周年屋外飼養できる飼養体系を確立させます。

おわりに

水田放牧などを始めるに当たっては、電気牧柵などの放牧施設や放牧の周知が図られるよう配慮し、放牧地周辺住民の合意を得ることが重要です。逆に地域住民が家畜の放牧に身近にふれることができることから、畜産に対する理解を得る機会ともなります（写真9）。

全国的に増えつつある耕作放棄地を解消するために農地管理法として放牧に対する期待はますます高まっています。今後は、畜産農家だけでなく放牧牛貸し付け（レンタカウ）制度など



（写真9）放牧地を訪れた子どもたち（干田雅之氏提供）
子どもたちにとって放牧地は動物園的存在です

を活用しながら耕種農家や地域住民が主体となって家畜放牧を実践することも増えてくると考えられます。牛を飼うことが、農地保全のみならず食育や資源循環などの環境教育を通じて、地域活性化に貢献できるとすれば、畜産業のモチベーションも上がります。

（筆者：（独）農業・食品産業技術総合研究機構・畜産草地研究所 放牧管理研究チーム・上席研究員）

引用および参考文献

- 北川美弥・池田堅太郎・西田智子・山本嘉人・梨木守・畠中哲哉（2008）糞上移植による放牧地の省力的なシバ草地化・畜産草地研究成果情報7、畜産草地研究所
- 山地畜産研究チーム（2006）小規模移動放牧マニュアル・技術レポート6号、畜産草地研究所
- 千田雅之（2008）飼料イネを活用した周年放牧モデル・畜産技術637:14-18
- 山本嘉人（2003）多様な土地基盤に対応した放牧草地の造成利用法・農業技術58:495-498
- 山本嘉人（2005）播種によるシバ型放牧草地の造成と利用・畜産技術602:34-37
- 山本嘉人（2007）栽培ヒエとイタリアンライグラスを組み合わせた水田放牧用草地. 畜産技術622:6-9
- 山本嘉人・北川美弥・西田智子（2008）栽培ヒエとイタリアンライグラスを組み合わせた水田放牧草地の植生と乾物生産量・日草誌54（1）:7-11
- 山本嘉人（2009）遊休水田等を活用した放牧技術・地域資源を活用した家畜生産システム・日本草地学会・学会出版センター、東京、p82-94

セミナー

経営技術

畜産特別資金借受者指導に係る取り組み状況の概要

—平成21年度7月に行われた関東・北陸・東海、近畿・中四国ブロック会議報告とりまとめから—

(社)中央畜産会

畜産特別資金借受者への経営改善指導に当たっては、問題となる負債の態様はさまざまなものがありますが、必ずどこかに何らかの原因があることから、個々の経営における発生要因を分析し、関係機関が連携をとりながら、共通の認識の下に指導に取り組み着実な経営改善を図ることが重要です。

中央畜産会では、平成20年度に東北・北海道および九州ブロック会議を開催、平成21年度には関東・北陸・東海および近畿・中四国ブロック会議を開催し、今日まで関係各機関において取り組んできた借受者指導の現状と課題などを概要として取りまとめました。

昨年の東北・北海道および九州ブロック会議の取りまとめと合わせて、借受者指導の参考としてください。

特に、飼料原油高の影響を受けた前後で特筆すべき事項

(1) 畜産農家

飼料・原油高の影響を受けて、各農家とも粗飼料の生産拡大、未利用資源の利用（富山県、岐阜県、愛媛県、高知県）を図る農家が増えています。具体的には、

- ・ トウモロコシ作付けに変更した（鳥取県）
- ・ 飼料給与を工夫している（群馬県）
- ・ 放牧頭数を増加し、飼料費の低減と空き牛舎を活用した子牛の育成管理などに努力している（兵庫県）

などの工夫を行っている一方、

- ・ 単価の安い飼料に変更、飼料の給与量を減らすといったその場しのぎの対応を取り、生産に悪影響を及ぼし資金繰りがより苦し

くなるという悪循環に陥る（群馬県）という経営体もみられ、各関係機関が連携した対応が求められています。

(2) 支援組織

① JA

各JAでの取り組みとしては、

- ・ 12月から3ヵ月間出荷乳量に対する支援金を交付し、1ヵ月分の購買品代金の分割払い（10回）措置や、県、JAグループによる家畜飼料支援資金などへの利子補給や償還期間延長猶予措置を行った（鳥取県）
- ・ 資金繰りに注意を払いつつ国の酪農緊急対策など積極対応を支援し、後継者の意欲向上を目的に経営見通しを明確にする方策として残高借り換えによる抜本的な軽減措置を模索して、経営継承資金を借入させた

(大阪府)

ところがあります。また、流通飼料に依存する経営体にあっては、

- ・飼料高騰が即時に経営収支を直撃したため、飼料給与をはじめ経営ロスの徹底的な削減を図る一方、飼養牛管理に重点を置いた取り組みによって周産期を含めた飼養牛事故が減少し、高位生産が行われたことで一定の償還財源の確保につながった（大阪府）

とする事例もみられます。しかしながら、

- ・安易な買掛金の増加を認め、回収が困難となるなど、融資機関の安易な姿勢がみられる（群馬県）

という事例もあり、関係機関との連携が必要となっています。

②行政など

行政などの関係団体の活動としては、

- ・生産者団体によって、配合飼料高騰などによる畜産の経営危機の理解醸成と畜産物の消費促進を図るため、街頭宣伝活動など一般消費者に対し、PR行動などを活発に実施した（香川県）
- ・現地機関に地区飼料高騰対策連絡会議を設置し、農家相談窓口による個別支援を実施し、飼料対策、生産効率対策、損耕対策、経営転換、資金対策の5つを柱に実施した（長野県）

といった事例がみられます。また、

- ・近代化資金を無利子化し、県独自の運転資金を予算化した（山口県）
- ・県内の畜産経営が生産性向上に取り組んだ

成果を取りまとめて冊子にして、県内すべての農家に配布して生産性向上への方策を提示した（新潟県）

ところなど、生産者団体・行政機関が一体となって取り組みを行っています。

畜産農家の生産意欲、経営中止、経営転換、離農など

(1) 畜産農家の生産意欲

- ・生産コストの増加に伴い、畜特農家には一部生産意欲が減退した者がいた（新潟県）
- ・飼料高騰が経営に響き、生産意欲が低迷した（徳島県）

などといった外的要因に起因するものがみられます。また、

- ・自給飼料基盤の弱い畜産農家は生産意欲が低い（兵庫県）

ものの、生産資材の上昇だけでなく生産物価格が低迷していることから、生産者は技術成績の改善向上やコスト低減に取り組むことにより、先のみえないまま経営を存続させています。さらに、

- ・資金繰りから規模縮小した（三重県）

という事例もみられました。一方で、

- ・後継者もできたし経営意欲はある（高知県）
- ・和牛子牛価格が堅調なため繁殖経営者は意欲が高い（兵庫県）
- ・一部高齢化、体調、後継者などの問題はあがるが生産意欲はある（広島県）

- ・生産量の増加を目的とした管理、導入が目立っている（山梨県）

- ・経営継承資金の借入によって厳しい環境下

での経営計画に見通しができ、後継者を含めて意欲の向上につながった（大阪府）とする府県もあります。

- ・畜特資金の効果が上がっているところもあるが、大方の生産者は収益低下により苦しい経営状況にあり、何とか経営が継続できるよう努力している（香川県）
- ・一定の規模・技術を有しているために経営維持に努力している（愛媛県）

というのが現状です。

（2）畜産農家の経営中止状況

- ・配合飼料価格安定基金による価格差補てん金ならびにマルキン、肉用子牛などの生産者補給金の支給を受け、経営上の損失が補てんされたため、借受者の経営中止、経営転換、離農などは防げた（兵庫県）

という事例がある一方で、

- ・肉用牛経営では素牛価格の高い牛の出荷と飼料高がダブルパンチとなり経営を圧迫し一部の農家で廃業（愛媛県）
- ・借入金が少ないが後継者がいないために経営中止を余儀なくされた（栃木県）

というところもみられます。経営中止までには至らなかったものの、

- ・JAの管理下で対応している経営がある（山梨県）

とする県や、飼料会社に対する買掛金の支払いを遅らせことで一時的にしのいでいる経営体が多く、今後、それらの回収が本格的に始まると予想されます。そのため、

- ・経営中止に追い込まれる経営体が増加する

可能性が高い（群馬県）

とするところもあります。経営中止に関する具体的な数字をみると、

- ・平成20年に大家畜経営活性化資金借受者5件のうち2件（40%）が経営中止、平成21年に大家畜経営活性化資金借受者3件のうち1件（33%）が経営中止（岡山県）という厳しい現状もみられます。また、

- ・平成19年1月～平成21年5月までの県の調査では、直接的に飼料価格の高騰によるかは不明だが、経営を中止した農家が19戸、規模縮小した農家は14戸、畜種を転換した農家は4戸（長野県）

- ・平成20年度の酪農経営の経営中止者は27件、平均年齢57歳となっています。経営中止理由のトップは、転換（和牛繁殖）11件、経営難3件で収益性の低下による経営中止（岡山県）

という県もあるようです。

（3）畜産農家の経営転換状況

経営中止、離農なども多くなっています。酪農経営では、

- ・高齢化などによる離農により、経営者210戸（平成18年度）が189戸（20年度終了時）に減少している（山梨県）

一方の肉用牛経営では、

- ・哺育経営が減り、一貫経営に転換する生産者が目立った（徳島県）
- ・資金借入者以外では酪農経営から肉牛繁殖経営への転換が多くみられる（兵庫県）

といったところもあります。

畜産特別資金に対する 融資機関の対応状況

(1) 融資機関であるJAの対応

JAの対応状況としては、

- ・月例経営検討会を積極的に開催し、経営者を交えて各関係機関と意見交換し、融資機関としてしっかりとした対応・指導を実施（三重県）
- ・借入農家はJAの系統のみだけでその数は3JA。ともに経営診断・分析に基づく総合的指導を徹底している。特に、2JAに畜産部が設置され、定期的な経営技術指導を実施（愛媛県）

といった事例があげられました。

しかし、肉用牛経営においては、JAの営農指導員が、導入、出荷などの指導を行っていますが、営農貸し越しが増える農家がみられ苦慮しています。また、酪農経営では、

- ・畜産協会の経営診断などに参画され、経営の状況を確認している（広島県）

というところもあります。一方、

- ・延滞債務が累積し、資産処分による経営再建を検討するも、経済不況による地価の下落と畜舎隣接農地の売却は環境問題から買い手が付かない。購入飼料代支払いの資金繰りから販売牛の早期出荷が続いており、収益性は悪化している。償還元金・借入利息の返済も滞り、融資機関においては、経営再建の見通しが立たないため資金の追加融資をしない方針で、代位弁済の請求を基金協会に求めている（香川県）

以上のような厳しい対応に迫られているところもあります。

審査委員会、県支援協議会の 運営状況、効果および課題

(1) 審査委員会

①運営

「新規貸し付けがないために審査委員会は開催していない」と回答する県は多いものの、

- ・新規の借り受け希望者がなくても、既借受者の計画見直しのため、毎年8月ごろに開催して、融資機関担当者、県出先機関（農林事務所）担当者にも出席・説明をしてもらうことにより、計画書の記載事項以外も含めて審査を行っている（静岡県）
- ・府が事務局となり、通常年1回開催、借受者の経営改善計画、見直し計画などの適正ならびに経営の安定および体質強化の見込みについて審査することにより、適正な資金融通を図っている（大阪府）

といったところもみられます。

②審査方法

審査方法には、以下のような方法がとられています。

- ・事前にヒアリングを実施する（鳥取県）
- ・県の主催により審査シートによる総合評価により計画の妥当性を評価している（三重県）
- ・負債の要因、経営改善計画などの妥当性を中心に審査する（兵庫県）
- ・県支援協議会から提出された資料（経営改善計画の評価・問題点・今後の指導方針な

どについての意見)を参考に審査を実施している(群馬県)

また、

- ・事前に支援協議会を開催して、意見を集約し、審査委員会に意見書を提出している(岡山県)

というように、審査委員会の前に支援協議会を開催し、事前に経営改善計画の評価や問題点、今後の指導方針などで協議しているところもみられます。審査委員会と支援協議会の役割分担を明確にして行う必要があるでしょう。

③効果

さまざまな立場の委員から、あらゆる角度から審査が行われる(鳥取県)というところもありますが、円滑な審査のためには審査基準を設定し行うことが重要です。

④課題

課題としては、融資機関が借受者の位置づけを明確に示すため、融資機関自らが審査シートの評価を行うことで考え方を引き出してはどうかといった意見があります。

また、審査評価の方法として、

- ・指標値の増減で判断するのか、その背景まで入り込むのか判断の難しい場面がある(三重県)
- ・事前に支援協議会を開催し、意見を集約し、審査委員会に意見書を提出していることから、審査委員会は形式化しがちである(岡山県)

としている意見もあり、審査方法、審査委員会と支援協議会機能を明確にして行う必要が

あります。

(2) 県支援協議会の運営状況、効果および課題

①運営

支援協議会の運営状況はどうでしょうか。

- ・チームによる指導としては、協議会を年2回開催している。1回目は、畜産特別資金借受者(以下「借受者」という)に対する現地および濃密指導計画の検討。2回目は、借受者に対する現地および濃密指導結果の検討など。一方の協議会によるチーム指導は、借受者8人および融資機関4団体に対する指導については、協議会の委員7人および幹事7人の計14人で日程調整のうえ、チームを編成して指導している(島根県)
- ・毎年6月ごろに1回開催。午前中に、県関係者や信連・保証協会などの担当者、政策金融公庫担当者による畜特資金の貸し付け現状や資金貸し付けへの考え方、対応などについて協議し、情報を交換している。午後には、各JAや市町担当者も集めて、畜特資金を含め、各種畜産関連資金の説明会を開催。畜産に限った資金説明会によりのけをしぼった説明となるとともに、県窓口となる担当者と直接話ができる場としている(山口県)

ところなど、運営面で工夫しているところもみられます。

②効果

協議会の運営効果としては、

・支援協議会によって対象農家の経営収支状況や経営課題、対策を共有でき、資金対応など円滑な農家支援が図れる（大阪府）

といった事例や、協議会が融資機関に対して積極的に働きかけることで、融資機関の意識向上が図られた例がみられました。

・特別の指導チームが編成され、積極的な指導が行われた（群馬県）

というところもみられます。さらには、

・構成7団体によるチーム指導のため、広範にわたる指導が行える。構成7団体において、借受者8人および融資機関4団体に対する認識が深まるとともに構成7団体と借受者8人および融資機関4団体との間において、信頼関係が築かれる（島根県）

・関係機関が一体となった支援体制の強化が図られた（山梨県）

とすところもあり、末端の支援段階で情報の共有が効果的に働いて効果がでていところもあります。

③課題

協議会活動の課題としては、以下のような意見が寄せられました。

・資金繰りの関係から購入飼料費支払いのため早期出荷（乳用種：15.5カ月齢）が改善できず、正常出荷を目指し、飼料給与・飼養管理の改善などを指導するも効果が出なかった（香川県）

とすところや、

・高騰に際し、限られた人員で対応しているが、実際、トリアージの実施を支援せざるを得ない。迅速性が低下した。（山梨県）

・年に1回の開催で、当年度の指導方向について検討しているが新規の借入れもなく、ややマンネリ化の傾向（愛媛県）

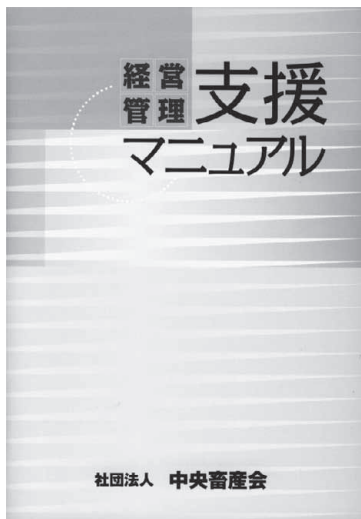
というところもみられます。

（つづく）

※経営指導の運営状況、効果および課題については次号で紹介します。

●参考図書●

経営管理支援マニュアル



近年、農業・畜産分野において地域の担い手育成の手法として、また経営体質強化の手法として法人化が急速に進められています。本書は、畜産経営の経営管理能力を向上させるために必要な会計・財務管理、資金の調達、法務、法人化などの事項について、最近の畜産情勢にみる課題と新しい制度・状況などを踏まえて検討し、取りまとめたものです。法人化を考える畜産経営者はもちろんのこと、経営指導者必携の1冊です。

【主な内容】

- 第1章 会計・財務管理
- 第2章 資金調達とその管理
- 第3章 税務
- 第4章 経営継承の取り組み
- 第5章 畜産経営に対する法人育成支援の進め方～法人化・法人育成の意義と効用～
- 参考資料 畜産経営が利用できる主な制度資金と使いみち

（社）中央畜産会 事業第一統括部（情報業務）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2

TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890 E-mail book@jlja.jp

！お知らせ

1. 肉用子牛生産者補給金制度にかかる指定肉用子牛の平均売買価格・生産者補給金について

[平成21年7月から9月の第2四半期]

肉用子牛生産安定等特別措置法（昭和63年法律第98号）に基づく肉用子牛生産者補給金制度の平成21年度第2四半期指定肉用子牛の平均売買価格は、品種区分ごとに以下の通りとなり、同期における生産者補給金が交付されます。

(単位：円)

		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専	乳用種	交雑種
保証基準価格		310,000	285,000	204,000	116,000	181,000
合理化目標価格		268,000	247,000	142,000	83,000	138,000
平均売買価格	第1四半期	351,300	288,600	213,900	87,300	194,700
	第2四半期	355,100	284,100	209,500	84,300	192,600
	第3四半期	—	—	—	—	—
	第4四半期	—	—	—	—	—
補給金交付単価	第1四半期	—	—	—	28,700	—
	第2四半期	—	900	—	31,700	—
	第3四半期	—	—	—	—	—
	第4四半期	—	—	—	—	—

詳細は都道府県庁の畜産主務課もしくは県団体にお問い合わせください。

2. 配合飼料価格差補てん事業にかかる価格差補てん金の額について

[平成21年10月から12月の第3四半期]

(社)全国配合飼料供給安定基金(全農系)、(社)全国畜産配合飼料価格安定基金(専門農協系)および(社)全日本配合飼料価格・畜産安定基金(商系)の3基金から平成21年度第3四半期配合飼料価格差補てん金の額が公表されました。

(単位：円/t)

区分		平成20年度	平成21年度		
		第4四半期 (1~3月)	第1四半期 (4~6月)	第2四半期 (7~9月)	第3四半期 (10~12月)
補てん金の額	通常価格差補てん金	0	0	0	0
	異常価格差補てん金	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

詳細は上記3基金にお問い合わせください。

3. 肉用牛肥育経営安定対策事業等にかかる 四半期平均推定所得等の算定結果について

【平成21年7月から9月にかかる四半期】

(独) 農畜産業振興機構は平成21年7月から9月にかかる四半期における肉用牛肥育経営安定対策事業実施要綱第5の6の(7)のイの(イ)の「理事長が別に定める算定数値」および肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業実施要綱第3の4の(3)のイの「理事長が別に定める肥育牛特別補てん金単価」について品種区分ごとに下表の通り算定結果を発表しました。

① 肉用牛肥育経営安定対策事業にかかる四半期平均推定所得等の算定結果

算定結果		肉専用種	交雑種	乳用種
四半期平均推定粗収益 (A)		844,563	473,127	326,987
四半期平均推定生産費 (B)		934,004	569,603	373,487
四半期平均推定所得 (A) - (B)		▲ 89,441	▲ 96,476	▲ 46,500

(参考) 基準家族労働費 (全国平均) を採用した場合の補てん金単価

		肉専用種	交雑種	乳用種
四半期平均推定所得 (C)		▲ 89,441	▲ 96,476	▲ 46,500
基準家族労働費 (全国平均) (D)		74,422	41,310	28,455
差額 (基準家族労働費が上限) (E)		▲ 74,422	▲ 41,310	▲ 28,455
補てん金単価 (E) × 0.8 (100円未満切り捨て)		59,500	33,000	22,700

四半期平均推定生産費の算定方法

$$(B) = (F) - \{(G) + (H) + (I)\}$$

		肉専用種	交雑種	乳用種
四半期平均推定生産費 (B)		934,004	569,603	373,487
四半期平均推定生産費総額 (F)		1,016,626	619,677	406,630
うち家族労働費 (G)		69,413	37,039	24,652
うち自己資本利子 (H)		10,834	11,175	7,366
うち自作地地代 (I)		2,375	1,860	1,125

② 肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業にかかる四半期品種区分別肥育牛特別補てん金単価

算定結果		肉専用種	交雑種	乳用種
区 分				
四半期平均推定粗収益 (A)		844,563	473,127	326,987
四半期平均推定生産費 (B)		934,004	569,603	373,487
四半期平均推定所得 (C) = (A) - (B)		▲ 89,441	▲ 96,476	▲ 46,500
肥育牛特別補てん金単価 (C) × 0.6		53,600	57,800	27,900

※肥育牛特別補てん金単価の100円未満切り捨て

詳細は都道府県庁の畜産主務課もしくは県団体にお問い合わせください。



あいであ & アイデア

子牛の移動、これがあれば十分です

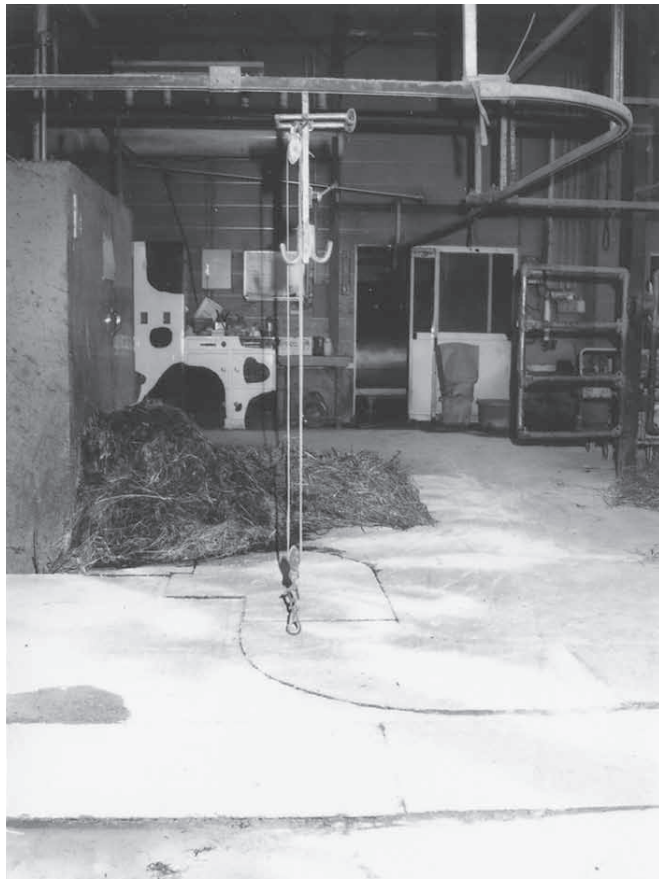
進藤 哲

牛舎での一工夫で労働力軽減

大規模な経営になればなるほど、労働力もまた必要になるのは自明の理ですが、ちょっとした工夫を凝らすことで労働力の軽減を図ることが可能です。牛舎においても、既存の設備を活用し、ちょっとした工夫を凝らすことで人手を減らすことができます。

ここでは、北海道豊富町で酪農を営む山本寿昭さんの牛舎で活用されている方法を紹介します。

山本さんの牛舎は91.3m×14.4mという大型の牛舎で、約100頭の対尻式タイストール式となっています。通路の幅は180cmで、このような大型牛舎で子牛が生まれた場合、一輪車などで子牛を移動させるのが通常でしょう。しかし、山本さんは、搾乳に用いるパイプラインミルクカーを移動させるレールを用いて、子牛を移動させています。



レールに滑車とロープを取り付けたところ

簡単かつ確実なレール移動

レールに滑車とロープ、網を取り付けてレール上を動くようにします。網は漁業網などの丈夫なものが望ましいでしょう。生まれた子牛をこの網にすっぽりと包み込んで引き上げれ



子牛も網に入れてしまえば… (今回は夫婦2人で入っていますが、1人でも可能です)



あとは1人で大丈夫



レールで移動し所定の場所に下ろします

ば、あとはもうユニットを押してレールを滑らせるだけです。

この方法であれば、1人でも安全かつ確実に子牛を所定の場所に移動させることが可能です。費用も、最初の設置費用である滑車・網代などの7万～8万円ほどで済み、経済的といえるでしょう。

このような工夫のおかげで、山本さんの経営は、1日当たりの生乳生産約2500kg、1頭平均28～30kgの高い生産性を誇りつつ、労働力は山本さん夫妻と実習生の3人のみとなっています。

おわりに

山本さんの牛舎は、今回紹介した子牛の移動方法に限らず、乳牛が快適に過ごすことができるカウコンフォート仕様となっています。牛が快適に過ごしていれば乳質も向上し、自信を持って消費者に牛乳をすすめることができます。紹介したような工夫などにより、牛舎での労働力を効率的に配分することも、経営を良くする一手法といえるでしょう。



山本さんの牛舎内の様子

(筆者：総括畜産コンサルタント)

 あいであ & アイデア

10月の牛肉市況

資料：東京畜産物情報センター「畜産物市況情報」以下同。
(単位：円、頭、%)

	東京市場																	
	和牛去勢A								和牛去勢B									
	取引価格				取引頭数				取引価格					取引頭数				
	5	4	3	平均	5	4	3	計	5	4	3	2	平均	5	4	3	2	計
1木	2259	1851	1600	1893	37	61	25	131	—	1728	1469	—	1560	—	5	9	—	14
2金	2202	1812	1585	1882	67	91	42	209	2082	1708	1493	1290	1605	3	6	5	6	20
5月	2167	1784	1580	1878	33	42	14	94	—	1689	—	—	1689	—	2	—	—	2
6火	2215	1805	1632	1846	38	63	33	146	1956	—	1534	735	1533	2	—	3	1	6
7水	2260	1890	1618	1966	60	60	25	153	1991	1752	1433	1248	1604	2	5	6	2	15
8木	2238	1788	1553	1816	37	76	46	165	1763	1631	1419	645	1455	3	6	3	3	15
9金	2289	1845	1541	1869	56	82	57	203	2071	1668	1503	1340	1653	5	7	11	2	25
1～10日 計・平均	2235	1825	1579	1877	328	475	242	1101	1985	1693	1477	1113	1584	15	31	37	14	97
12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13火	2290	1735	1498	1851	17	21	12	52	—	—	795	—	795	—	—	1	—	1
14水	2131	1832	1542	1847	63	73	45	189	2034	1485	1423	—	1489	1	4	6	—	11
15木	2198	1857	1554	1869	57	64	43	172	2017	1668	1306	1160	1504	1	6	5	2	14
16金	2218	1846	1558	1932	87	67	41	205	—	1594	1469	1325	1514	—	6	3	2	11
19月	2111	1774	1522	1853	20	18	11	50	1961	1608	1424	1244	1591	1	4	1	1	7
20火	2120	1763	1555	1808	71	81	46	216	1784	1673	1433	—	1557	1	5	7	—	13
11～20日 計・平均	2171	1813	1547	1862	315	324	198	884	1949	1612	1379	1242	1513	4	25	23	5	57
21水	2132	1739	1555	1826	70	84	41	203	1786	1663	1380	1003	1524	1	5	4	1	11
22木	2142	1803	1546	1879	78	67	39	190	1884	1511	1481	1339	1507	1	9	5	2	17
23金	1983	1697	1496	1741	73	89	45	215	1968	1710	1397	1250	1657	5	7	6	2	20
26月	2012	1671	1503	1769	28	25	13	70	—	1633	1392	1181	1448	—	5	5	3	13
27火	1898	1660	1475	1688	65	84	42	201	1722	1504	1397	1190	1399	1	7	5	6	19
28水	1947	1682	1457	1676	52	72	48	184	1826	1474	1452	1178	1420	2	3	5	5	15
29木	1983	1694	1496	1689	35	48	37	129	—	1540	1467	1212	1458	—	3	2	1	6
30金	2239	1737	1527	1978	133	83	30	249	—	1597	1429	—	1514	—	5	5	—	10
21～31日 計・平均	2077	1713	1504	1793	534	552	295	1441	1888	1581	1421	1198	1496	10	44	37	20	111
10月 計・平均	2146	1776	1540	1837	1177	1351	735	3426	1946	1623	1432	1173	1531	29	100	97	39	265
前月比 10-9月	▲15	27	44	33	242	255	100	582	39	1	8	60	5	4	27	31	12	74
10/9月	99	101	102	101	125	123	115	120	102	100	100	105	100	116	136	146	144	138

※全国の9中央食肉卸売市場および19地方食肉卸売市場の取引実績(市場別、品種別、規格別頭数、価格)は、畜産情報ネットワーク(LIN)の参加団体である(社)日本食肉市場卸売協会のホームページ(<http://www.jmma.or.jp/>)からダウンロードできます。また、携帯電話からも市況速報をみることができます(<http://www.jmma.or.jp/i/>)。NTT DoCoMo iモード/au EZweb / softbank に対応しています。

	大阪市場																	
	和牛去勢A								和牛去勢B									
	取引価格				取引頭数				取引価格					取引頭数				
	5	4	3	平均	5	4	3	計	5	4	3	2	平均	5	4	3	2	計
1木	2172	1792	1519	1756	12	17	12	47	—	—	1496	1257	1384	—	—	3	3	6
2金	2429	1785	1521	1871	28	46	26	105	2015	1588	1452	1298	1616	6	3	10	2	21
5月	2011	1696	1514	1712	7	9	7	25	—	1598	1399	1307	1410	—	2	7	3	12
6火	2207	1816	1523	1678	6	34	31	81	—	—	1484	1315	1419	—	—	12	8	20
7水	2081	1815	1480	1602	6	11	22	45	—	1679	1283	1343	1404	—	2	4	3	9
8木	2070	1668	1450	1630	9	23	19	57	—	1692	1373	1100	1502	—	5	3	2	10
9金	2194	1765	1479	1750	15	32	15	71	—	1679	1231	1369	1391	—	2	3	4	9
1~10日 計・平均	2233	1769	1499	1733	83	172	132	431	2015	1652	1417	1300	1467	6	14	42	25	87
12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13火	2026	1615	1464	1631	3	4	6	13	—	—	—	1096	1096	—	—	—	2	2
14水	2098	1714	1480	1660	11	24	31	68	—	1578	1374	1250	1385	—	1	6	1	8
15木	2168	1749	1486	1766	11	14	12	39	—	1736	1445	1123	1437	—	1	3	1	5
16金	2061	1804	1485	1692	5	12	7	28	—	1785	1532	—	1577	—	1	4	—	5
19月	2125	1618	1465	1679	2	4	3	9	—	1660	1445	1263	1455	—	1	1	1	3
20火	2088	1755	1541	1608	5	21	12	50	—	1554	1487	1212	1375	—	1	2	3	6
11~20日 計・平均	2108	1734	1489	1670	37	79	71	207	—	1662	1445	1183	1412	—	5	16	8	29
21水	2065	1776	1445	1658	3	10	6	22	2049	—	—	1317	1522	1	—	—	3	4
22木	—	1806	1503	1638	—	17	11	34	—	1538	1509	1208	1488	—	2	4	1	7
23金	2160	1806	1475	1784	7	13	6	29	2193	—	1440	1418	1626	1	—	2	2	5
26月	2045	1796	1580	1779	2	4	1	8	—	1624	1308	—	1551	—	3	1	—	4
27火	2214	1846	1562	1717	6	17	26	53	—	1479	1458	1172	1343	—	1	4	4	9
28水	2103	1858	1546	1738	4	12	10	30	1730	1591	1554	—	1614	1	2	1	—	4
29木	2325	1764	1612	1651	1	5	12	21	—	1628	—	1232	1404	—	2	—	3	5
30金	2098	1769	1479	1819	7	10	2	21	—	1648	—	1211	1431	—	1	—	1	2
21~31日 計・平均	2137	1810	1540	1716	30	88	74	218	1990	1592	1467	1256	1481	3	11	12	14	40
10月 計・平均	2182	1771	1507	1713	150	339	277	856	2006	1631	1431	1266	1460	9	30	70	47	156
前月比 10-9月	30	▲3	26	29	26	3	▲5	24	103	18	▲30	69	7	5	2	11	17	35
10/9月	101	99	101	101	120	100	98	102	105	101	97	105	100	225	107	118	156	128

	東京市場																	
	乳用牛去勢B								乳用牛去勢C		F ₁ (交雑)去勢B							
	取引価格				取引頭数				取引価格	取引頭数	取引価格				取引頭数			
	4	3	2	平均	4	3	2	計	平均	計	4	3	2	平均	4	3	2	計
1木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1258	1179	997	1157	13	38	18	70
2金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1431	1208	1000	1171	5	13	11	29
5月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1353	1238	1033	1215	12	14	13	39
6火	—	—	—	—	—	—	—	—	603	1	1306	1173	1009	1138	7	36	19	62
7水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1277	1155	965	1085	8	17	24	49
8木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1274	1094	888	988	2	18	22	43
9金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1341	1152	906	1088	8	26	24	59
1~10日 計・平均	—	—	—	—	—	—	—	—	603	1	1315	1168	961	1118	55	162	131	351
12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1151	1103	884	1068	13	19	10	42
14水	—	—	—	—	—	—	—	—	616	1	1200	1146	889	1047	2	20	17	40
15木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1245	1134	882	1020	7	18	27	52
16金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1240	1109	869	1032	11	15	23	49
19月	—	—	—	—	—	—	—	—	627	2	1240	1048	825	958	6	31	38	75
20火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1280	1104	848	991	3	26	27	56
11~20日 計・平均	—	—	—	—	—	—	—	—	623	3	1214	1101	859	1011	42	129	142	314
21水	—	—	—	—	—	—	—	—	626	1	1239	1102	885	1040	6	30	21	57
22木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1258	1136	849	1059	6	27	20	54
23金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1170	1092	839	954	3	8	16	27
26月	—	—	737	737	—	—	2	2	684	1	1314	1131	881	1084	15	36	27	78
27火	—	—	—	—	—	—	—	—	587	1	901	1058	823	908	3	22	32	57
28水	—	—	—	—	—	—	—	—	468	2	1232	1057	833	988	8	44	33	85
29木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1286	1074	871	1039	8	33	25	68
30金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1298	1083	941	1158	11	14	4	30
21~31日 計・平均	—	—	737	737	—	—	2	2	566	5	1255	1091	854	1026	60	214	178	456
10月 計・平均	—	—	737	737	—	—	2	2	589	9	1265	1118	886	1050	157	505	451	1121
前月比 10-9月	—	▲1179	▲51	▲184	—	▲3	▲21	▲24	▲25	▲8	▲4	▲5	8	8	15	142	28	184
10/9月	—	—	93	80	—	—	8	8	95	52	99	99	100	100	110	139	106	119

	大阪市場																	
	乳用牛去勢B								乳用牛去勢C		F ₁ (交雑)去勢B							
	取引価格				取引頭数				取引価格	取引頭数	取引価格				取引頭数			
	4	3	2	平均	4	3	2	計	平均	計	4	3	2	平均	4	3	2	計
1木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1313	1189	1025	1119	1	13	13	27
2金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1413	1260	1060	1277	16	9	10	35
5月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1360	1204	1025	1218	8	13	9	31
6火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1399	1224	1025	1121	2	7	14	23
7水	—	—	—	—	—	—	—	—	731	6	1341	1200	1007	1131	6	26	27	59
8木	—	766	764	764	—	1	5	6	677	12	1298	1092	970	1038	3	111	21	35
9金	—	—	676	676	—	—	1	1	666	4	1303	1097	936	1074	5	17	12	34
1~10日 計・平均	—	766	749	751	—	1	6	7	689	22	1367	1133	1002	1139	41	196	106	244
12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1299	1161	919	1138	6	8	6	20
14水	—	—	—	—	—	—	—	—	682	5	1309	1159	995	1110	4	25	18	47
15木	—	838	729	763	—	3	7	10	688	8	1296	1150	1019	1166	4	14	2	20
16金	—	735	736	736	—	1	1	2	689	21	1367	1165	973	1067	1	12	16	29
19月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1399	1115	977	1081	2	21	14	37
20火	—	—	689	689	—	—	3	3	698	1	1383	1190	917	1135	2	11	6	19
11~20日 計・平均	—	812	718	744	—	4	11	15	688	35	1323	1152	971	1109	19	91	62	172
21水	—	—	678	678	—	—	5	5	686	8	—	1170	960	1082	—	7	11	19
22木	—	—	—	—	—	—	—	—	665	5	1278	1144	926	1095	4	18	11	33
23金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1125	881	928	—	3	14	17
26月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1386	1189	980	1159	5	8	9	22
27火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1274	1191	880	1073	4	10	12	26
28水	—	—	767	767	—	—	1	1	735	6	1325	1182	960	1114	5	21	18	44
29木	—	864	735	775	—	2	5	7	665	9	1321	1128	970	1057	1	8	10	19
30金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1298	1143	888	1052	4	13	14	31
21~31日 計・平均	—	864	712	737	—	2	11	13	686	28	1316	1162	928	1078	23	88	99	211
10月 計・平均	—	820	722	742	—	7	28	35	687	85	1342	1144	967	1110	83	375	267	627
前月比 10-9月	—	24	23	32	—	4	3	7	2	38	▲30	▲27	10	10	28	121	20	67
10/9月	—	103	103	104	—	233	112	125	100	180	97	97	101	100	150	147	108	111

10月の豚肉市況

(単位：円、頭、%)

	仙台市場										東京市場									
	取引価格					取引頭数					取引価格					取引頭数				
	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令
1木	385	352	313	328	386	56	57	44	180	59	391	351	310	322	391	191	378	145	814	192
2金	381	352	312	314	381	56	66	68	243	56	380	354	315	327	380	225	444	133	909	226
5月	378	353	306	298	378	32	78	105	261	32	366	341	295	328	366	262	390	77	773	262
6火	372	345	284	287	372	58	56	90	255	58	362	330	306	318	362	280	541	158	1061	280
7水	350	323	285	297	350	43	76	55	195	43	369	334	312	329	369	163	360	89	647	163
8木	359	334	267	299	359	50	97	61	238	50	372	343	313	322	372	177	297	94	640	177
9金	347	318	271	284	347	59	105	89	290	59	354	334	301	344	406	273	330	72	807	344
1~10日 計・平均	367	337	290	299	367	354	535	512	1662	357	369	340	308	326	379	1571	2740	768	5651	1644
12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13火	360	338	283	255	360	44	76	94	332	44	385	333	311	327	385	266	366	93	787	266
14水	359	343	290	328	359	40	51	30	128	40	392	338	302	325	392	254	459	135	936	254
15木	371	344	300	315	371	58	82	62	250	58	394	336	299	322	394	265	483	152	1000	265
16金	368	347	299	308	368	76	103	58	279	76	391	354	310	321	391	278	315	91	803	279
19月	369	350	317	303	369	36	72	78	218	36	391	351	319	349	391	237	329	77	673	237
20火	373	354	296	271	373	23	60	50	176	23	393	355	326	345	393	291	446	126	931	291
11~20日 計・平均	366	345	297	292	366	277	444	372	1383	277	391	343	310	330	391	1591	2398	674	5130	1592
21水	395	351	294	272	395	9	45	55	134	9	392	333	304	331	392	225	434	136	848	226
22木	376	351	276	299	376	21	36	33	112	21	396	343	303	313	396	215	381	115	810	215
23金	366	340	286	305	366	63	78	77	246	63	407	348	307	347	409	233	448	146	878	234
26月	368	353	309	296	368	68	77	89	277	68	392	338	295	336	392	253	299	73	662	253
27火	366	345	282	305	366	39	77	107	247	39	390	330	295	332	390	332	516	122	1020	332
28水	360	340	241	260	360	30	54	66	182	30	401	337	307	335	401	181	310	69	592	181
29木	381	347	301	307	381	30	49	58	173	30	395	350	285	317	395	263	318	90	773	264
30金	364	334	287	300	364	85	120	73	331	85	401	348	291	304	401	158	295	101	652	158
21~31日 計・平均	368	343	285	294	368	345	536	558	1702	345	396	340	299	327	396	1860	3001	852	6235	1863
10月 計・平均	367	341	289	295	367	976	1515	1442	4747	979	385	340	305	327	388	5022	8139	2294	17016	5099
前月比 10-9月	▲16	▲13	▲22	▲22	▲16	311	377	261	1144	314	6	▲11	▲5	▲9	9	32	966	272	1517	81
10/9月	95	96	92	93	95	146	133	122	131	147	101	96	98	97	102	100	113	113	109	101

※全国の9中央食肉卸売市場および19地方食肉卸売市場の取引実績(市場別、品種別、規格別頭数、価格)は、畜産情報ネットワーク(LIN)の参加団体である(社)日本食肉市場卸売協会のホームページ(<http://www.jmma.or.jp/>)からダウンロードできます。また、携帯電話からも市況速報をみることができます(<http://www.jmma.or.jp/i/>)。NTT DoCoMo iモード/au EZweb / softbank に対応しています。

	大阪市場										福岡市場									
	取引価格					取引頭数					取引価格					取引頭数				
	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令
1木	359	324	307	283	359	70	149	100	383	70	404	373	337	339	404	245	104	58	445	245
2金	361	331	326	317	361	63	87	34	201	63	391	356	319	358	391	206	150	49	420	207
5月	355	320	291	294	355	88	179	65	377	88	389	368	395	345	389	256	190	44	522	256
6火	361	322	308	316	361	115	175	79	400	115	380	347	309	341	380	276	160	51	507	276
7水	356	321	302	318	356	122	140	57	338	122	381	357	309	343	381	161	162	60	400	161
8木	354	317	302	280	354	69	178	92	396	69	377	346	313	328	377	188	91	48	342	188
9金	358	325	310	302	358	70	130	72	309	70	384	372	341	325	384	228	144	42	455	228
1~10日 計・平均	357	322	305	299	357	597	1038	499	2404	597	387	360	330	340	387	1560	1001	352	3091	1561
12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13火	363	327	300	289	363	54	149	64	320	54	375	354	314	342	375	136	127	50	323	136
14水	402	369	336	355	402	108	136	75	341	108	376	334	300	351	376	223	164	41	433	223
15木	396	344	310	299	404	69	181	124	440	71	368	339	300	333	370	198	147	49	409	201
16金	359	327	312	317	359	103	172	110	419	103	381	341	345	349	381	266	167	60	505	266
19月	365	329	306	289	365	74	163	88	383	74	374	340	295	347	374	328	152	55	548	335
20火	397	357	307	331	397	69	137	109	337	69	371	339	298	343	372	252	157	40	463	254
11~20日 計・平均	380	341	311	312	382	477	938	570	2240	479	374	340	310	344	374	1403	914	295	2681	1415
21水	398	336	303	318	398	103	173	110	430	103	372	342	291	316	372	218	129	67	433	218
22木	393	331	303	287	393	65	141	135	409	65	366	334	291	286	366	155	99	32	321	155
23金	378	323	305	321	378	125	193	106	450	125	380	369	377	360	380	166	127	54	359	166
26月	396	337	304	303	396	70	165	65	348	70	362	357	319	350	363	229	163	59	463	234
27火	395	332	315	331	395	68	120	84	298	68	369	336	302	341	369	233	145	37	423	233
28水	390	322	296	321	390	94	150	122	385	94	405	348	324	323	405	148	116	58	351	148
29木	395	321	291	280	395	58	151	129	413	58	370	338	297	331	370	219	92	33	352	219
30金	391	322	301	333	391	124	139	54	333	124	384	362	317	342	384	195	192	97	508	195
21~31日 計・平均	390	328	301	310	390	707	1232	805	3066	707	374	349	316	332	374	1563	1063	437	3210	1568
10月 計・平均	376	329	305	307	376	1781	3208	1874	7710	1783	378	349	318	338	378	4526	2978	1084	8982	4544
前月比 10-9月	▲28	▲46	▲39	▲41	▲29	▲84	699	557	1295	▲86	▲32	▲28	▲19	▲32	▲32	741	431	291	1538	755
10/9月	93	87	88	88	92	95	127	142	120	95	92	92	94	91	92	119	116	136	120	119

9月の子牛市況

資料：(独)農畜産業振興機構「月別肉用子牛取引情報」
(単位：頭、%、円、月、kg)

道府県市場	取引頭数			対前 月比	1頭当たり価格(100円)			1kg 価格	対前 月比	平均 月齢	平均 体重	
	計	めす	おす		平均	めす	おす					
和 子 牛	岩手 岩手中	1146	484	662	100	3742	3508	3913	1307	106	10	286
	岩手 県南	643	281	362	100	3803	3562	3989	1306	102	10	291
	宮城 みやぎ	1424	678	746	101	3436	3202	3649	1184	103	10	290
	秋田 由利	223	114	109	95	3791	3416	4182	1310	99	10	289
	山形 置賜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	茨城 全農	168	91	77	—	3302	2828	3862	1123	—	10	294
	栃木 矢板	693	318	375	95	3700	3271	4064	1290	102	10	287
	群馬 渋川	271	121	150	110	3634	2962	4176	1266	102	10	287
	兵庫 淡路	449	189	260	122	4823	4461	5085	1934	95	9	249
	鳥取 中央	215	97	118	—	3437	3053	3753	1263	—	9	272
	島根 島根	338	154	184	100	3471	2961	3897	1253	101	9	277
	岡山 全農	264	93	171	6600	3645	3084	3950	1356	137	9	269
	広島 三次	3	2	1	1	2027	1622	2835	1228	94	7	165
	熊本 熊本	790	358	432	100	3633	3201	3991	1422	99	8	255
	宮崎 都城	1317	630	687	93	3689	3376	3975	1307	101	10	282
	鹿児島 肝属	1258	562	696	110	3540	2983	3989	1278	100	9	277
鹿児島 曾於	1753	799	954	118	3650	3156	4063	1285	91	9	284	
北海道 十勝	1071	482	589	91	3500	3103	3820	1177	101	10	297	
合計・平均	12026	5453	6573	104	3654	3258	3982	1299	100	9	281	
乳 子 牛	青森 三本木	19	—	19	172	941	—	941	292	79	9	322
	群馬 前橋	1	—	1	12	536	—	536	164	32	11	327
	千葉 千葉	56	4	52	96	687	1118	654	241	88	8	285
	岐阜 中央	14	10	4	116	974	1166	496	346	149	10	282
	愛知 豊橋	177	—	177	114	995	—	995	331	113	8	301
	徳島 徳島	99	1	98	103	1054	557	1059	365	97	7	289
	宮崎 児湯	105	4	101	134	954	1011	952	324	91	8	295
	北海道 十勝	51	9	42	463	449	398	461	174	90	7	258
	北海道 北見	98	10	88	103	590	343	618	197	81	8	300
合計・平均	620	38	582	118	857	730	866	291	95	7	293	